



知っていますか？放射線

上関 未来通信

豊かな町を原電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.24

通算338号

発行 平成29年10月10日

親子で楽しく勉強会

9月10日、上関町青壮年連絡協議会が、町内のお母さんと子どもたちを対象にした勉強会を開催しました。講師は子どもも含む一般の皆さんや教育者などを対象に、放射線に関する授業・講演を行っている秋津裕氏です。この日は、私たちの身近にある放射線について、実験などを通して分かりやすくお話していただきました。



秋津裕氏 プロフィール

日本女子大学家政学部児童学科卒業
住友商事(株)、PR コンサルティング会社を経て、東京都私立幼稚園主任教諭
2011年3月 日本女子大学リカレント教育課程修了
2015年3月 京都大学大学院エネルギー科学研究科修士課程修了
2015年4月 同博士後期課程進学 3回生在学中
(専門はエネルギー教育・エネルギーリテラシー調査)



教える側も基礎知識が乏しい

私が各地で子ども達を対象にした放射線教育を行う中で感じているのは、家族の姿、殊に母親の知識や考え方が子どもに影響しているのではないかと、という事です。子どもは大人の会話をよく聞いています。ですから今日は、皆さんに放射線に関する正しい知識とイメージを少しでもお伝えできればと思います。

身近にある放射線

最初に学校教育の現場を見てみましょう。日本の放射線教育は1951年には科学技術教育として扱われてきました。しかし1977年から2012年まで30年以上、放射線教育の現役教師をはじめ、大人の大半は放射線について学校で学んでいません。放射線への理解も十分とは言えませんし、被爆国ということもあり、私たち日本人には放射線の悪い印象だけが強く記憶されています。



子どもたちにも分かりやすく話をされる秋津裕氏

このように、私たち大人でもよく分からないという印象の強い放射線ですが、空気や地面、食べ物などにも放射線を出す物質があります。これら身の回りに存在する放射線を、自然放射線と呼びます。私たちは、この自然放射線を常に体に受けながら生活しているのです。また、放射線は身近にあるだけでなく、私たちの暮らしの中の様々な場面で活用されています。身近なところでは、レントゲン撮影や注射針など医療用具の殺菌、品種改良や

放射線の危険性

ジャガイモの芽止めなどにも利用されています。食品に放射線を使用していると聞くと、皆さん驚かれるかもしれませんが、芽止めでは、かなり高い線量の放射線を当てますが、ジャガイモが放射線を持つことは絶対にありませんから安心して下さい。福島第一原子力発電所の事故では、建物の一部が破損したことにより、放射性物質が環境へ放出されました。今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされています。

風評被害を考える

方で、例えばいくら除染しても基準をクリアできないということも起こり得るのです。どの様な選択をするにしろ、私たちはこうしたことに対し科学的に判断し、意思表明できるだけの知識を身につける必要があるのです。震災以降、愛知県日進市の花火大会で、福島県産花火の使用を中止されたので、ご記憶の方も多いのではないのでしょうか。

事故で放出された放射線と、自然放射線とは何が違うのでしょうか。それは放射線の量です。火も水も多すぎると危険なように、放射線はエネルギーです。多すぎると受けすぎると人体に様々な悪影響が出てしまいます。ただし、多すぎると放射線源から「距離をおく」「遮へい物で防ぐ」「被ばくする時間を短くする」といった方法で不要な放射線を防ぐことは可能です。

人は100ミリシーベルト以上被ばくすると、ガンになる確率が0.5%増加します。これは統計的に分かっています。しかし、それ以下では日常生活の様々なリスクに紛れ、放射線の影響によるものかを見分けることが難しくなります。日本では、震災以降「被ばく量は少ないほど良い」という考えで基準を決めました。非常に厳しい基準にした結果、私たちは守られている一



霧箱で放射線の飛跡を確認

子どもは周囲の大人や家庭での会話に影響を受けます。だから、まず大人が正しい知識を身につけなくてはならないのです。お父さん、お母さんが正しく理解すれば、子どもにもきつと伝わります。それでも科学的評価では納得できない人たちがいると思います。どれほど安全性を示しても「安心できない」と。科学だけでは人々の感情に答えられないことも、理解しておかなければなりません。

正しい知識を伝えたい

町連協／放射線教育については、福島県内の教師の7割が指導の難しさを感じているようですが、今後はどのようにアプローチしていけば理解が深まるのでしょうか。

秋津／まず、学校の先生には専門資料にふれたり、講演会に参加したりするなどして理解を深めてほしいと思います。そして、疑問や質問などの情報交換が出来る自身のネットワークをつくってほしい。

教える側が理解した内容は、そのまま子どもに伝わります。だから、放射線に対する正しいイメージをもって、それを言葉にして伝えてほしいと思います。

町連協／今日の勉強会でも、実際に放射線を観察、測定する実験を通して、放射線のイメージをつかむことができませんでした。こういったイメージが大切なのですね。

続いて、私が今一番お伺いしたい内容についての質問です。放射線のことをよく分からないままで怖がっていたのでは、風評被害を増長させてしまいます。そうならないために、私たちは何をすれば良いでしょうか。

秋津／放射線について学んで終わりにせず、周囲へも伝えていくことが大切です。知識は人の価値観や信念に働きかけ、行動を変える要素だと思えます。皆さんのように、自ら関心を持ち、さらにその先に進んでいこうとする人たちが、周囲を巻き



秋津裕氏(右)と古泉直紀 町連協事務局長

込んで一緒に進んでいけるといいと思います。

先日、経済産業省が公表した、高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する「科学的特性マップ」についても同じことが言えます。単に否定したり反対するだけでは前へ進めません。その時々で解を見出すために、議論を重ねる必要があります。

私は各地で放射線に関するお話しをしています。講師一人が伝えられることには限界がありますから、勉強会をきっかけに、皆で話し合うことができるようになると良いと思います。また、講師としても、皆さんの学ぶ姿勢から刺激を受けることで、常に新鮮な状態を維持できると思っています。

町連協／子どものころから放射線を理解して、いろいろなところをそれを広められればいいですね。先生のお話しは、会報などを通じて広めていきたいと思えます。今日はありがとうございました。

【勉強会を終えて】



岩木和美さん

知り合いに「福島ものは自分たちは食べるけど孫には食べさせたくない」と言う人がいます。頭では分かっているけど直感的に「危険かも」と思ってしまうようです。

放射線は、自分たちで簡単に測ってみることができないのが悩ましいところ。その意味で、今回のように実験を通じて見えたり体験できたりするのは、感覚的に理解できて良かったと思えます。

「怖い」「怖い」でいいのです。ただ、正しい知識を根拠に判断できるように、私たちも学んでいきたいと思えます。

青壮協 参加レポート

第50回 日本原子力産業協会 年次大会

いま、過去を未来へ結ぶ

4月11・12の両日、東京で、一般社団法人日本原子力産業協会(JAIF)による第50回原産年次大会および第16回JAIF地域ネットワーク意見交換会が開催されました。

原産年次大会では、国内外の原子力関係者および有識者等多数参加のもと「いま、過去を未来へ結ぶ」を基調テーマに「過去・現在・将来における原子力の役割」、「海外の動向と日本への期待」といった内容について、講演やパネルディスカッションが行われました。参加者からは「日米が先導して次世代原子炉開発に取り組むことで、将来にわたって原子力を基軸に据えた経済繁栄を達成することがで

きる」といった意見や「世界の持続可能な発展と地球温暖化の防止のために原子力が果たす役割は重要であり、日本もコストの高い化石燃料を減らすことで二酸化炭素排出量を削減に貢献できる」といった意見が出されていました。

また、今回は50回目となる記念大会ということもあり「若手が語る原子力の未来・夢」をテーマに、若手特別セッションも行われ、原子力産業や学業に従事する若い世代が、原子力を活用した将来に対する夢などについて熱く語り合いました。

JAIFの意見交換会では「福島を伝える」と題し、福島大学助教のマクマイケル氏が講演。福島風評被害払拭のための情報発信固定されていることや、発信する情報の受け取り方について様々な見方があることを改めて認識する機会となりました。

日本の原子力技術を再認識

上関町青壮年連絡協議会 事務局 松原聖

原産年次大会を通じて、世界規模での二酸化炭素排出量削減のためには、原子力発電は必要不可欠であり、日本の最先端の技術が、海外からも期待されていることを実感しました。

報道内容の

解釈は慎重に

上関町青壮年連絡協議会 事務局 守友誠

意見交換会への参加は、未だに福島についての間違った報道が行われており、それによって福島の負のイメージが



会場の東京国際フォーラムにて

今年も中ノ浦海水浴場で清掃活動を行いました



上関町青壮年連絡協議会メンバーを中心に約20名で実施



海岸のベンチを整備

について、意見交換を行いました。参加者からは「福島事故を体験した日本だからこそ、国民一人一人が原子力について語れるようになる必要がある」「正確な情報が発信されない結果、現状では福島の問題が進まず、風評被害やいじめ問題につながる」といった意見が出るなど、有意義な意見交換会となりました。